



2022年5月11日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長兼最高経営責任者
 此下 竜矢
 (コード番号 5103 スタダート市場)
 問合せ先 代表取締役最高執行責任者兼
 最高財務責任者 庄司 友彦
 (TEL. 04-7131-0181)

個別業績の前年実績値との差異に関するお知らせ

当社は、個別業績予想につきまして重要性の観点から公表を行っておりませんが、2022年3月期の個別業績値と前期実績値に差異が生じたので、以下の通りお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期個別業績と前期実績との差異（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	413百万円	▲140百万円	▲2,027百万円	▲26.73円
当期実績(B)	407百万円	▲201百万円	▲723百万円	▲9.54円
増減額(B-A)	▲6百万円	▲60百万円	1,303百万円	17.19円
増減率(%)	▲1.47%	—	—	—

2. 前期実績との差異理由

2022年3月期の実績につきましては、売上高は僅かに減少し、407百万円となりました。これは主に、当事業年度においても、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症のまん延防止策等の影響で、その業績に下方のインパクトがあった当社連結子会社に対し、経営指導料収入の一時減額措置をとったことによるものです。なお、現在も、当該経営指導料の減額措置は継続中です。

経常利益につきましては、当事業年度において、主に新型コロナウイルス感染症のまん延防止策等でその業績に大きな下方インパクトがあった連結子会社等への貸付金、未収入金に対する貸倒引当金繰入額（107百万円）が増加したことで、前期比60百万円減少することとなり、▲201百万円となりました。

また、当期純利益につきましては、前期と比較し1,303百万円増加し、▲723百万円となりました。これは、前期は特別損失にて、当社の保有する(株)ウェッジホールディングス（東京証券取引所JASDAQ（現 グロース）市場上場）株式について投資損失引当金繰入額1,894百万円を計上しておりましたが、当期は、同社株式の市場取引価額にて改めて株価評価をし直し、関係会社株式評価損610百万円を計上することとなり、特別損失に

計上する(株)ウェッジホールディングス株式の評価減額が大幅に縮小したことによるものです。

以上